



風通しが良くなる
職場イベント大会

はじめに

職場の風通しを良くするために、 イベントを上手に活用しよう

職場の「風通しを良くする」ためには、個人のコミュニケーション能力を上げることが肝心だと考える人が多いと思います。たしかに、現場で直面するリーダーとメンバーや、メンバー間における問題の多くは、「コミュニケーション」に起因することが少なくありません。

では、個人のコミュニケーション能力が向上すれば、職場の風通しは良くなるでしょうか。答えは、YesでありNoです。

たとえば、交通事故が多発する交差点や道路を思い浮かべてみてください。ドライバーの運転技術が向上すれば、事故はなくなるでしょうか。もちろん、少なくともはなるでしょうが、根絶はむずかしいはずです。カーブの角度・道幅・遮蔽物の撤去など、道路の構造そのものを見直さなければ事故はなくなりません。同じことが職場にもいえます。

個人のコミュニケーション能力の向上・改善のための努力とともに、職場の構成員が一丸となって目的達成に向かえるような「考え方／意識／心の流れ」を導く組織構造（システム）を兼ね備えていなければ、継続的に成果をあげ続けることはむずかしいのです。

本テキストにおいて、個人の「違い」に注目したコミュニケーション能力の向上・改善だけではなく、組織について多くのページを割いたのは、その視点を持って職場を見直していただきたいと考えたからです。

第1章では、職場の“ギスギス感”の原因を多くの視点から考えます。第2章では、「対人コミュニケーション」の能力向上・改善のポイントを提示しています。第3章では、人と人をつなぐためのアイデアについて学びます。第4章では、「風通しを良くするためのイベント」の具体的なすすめ方を紹介しています。

本テキストから、職場の風通しを良くするための自職場に合ったイベントとその活用の仕方を見つけてください。

はじめに	3
第1章 いま職場で発生している“ギスギス感”の原因	5
1. 聞き取り調査から見てきた「ギスギスした職場」の現状	6
2. 組織の健康診断をしてみよう	8
3. 各メンバーの「集団形成要因」を汲み取っているか	10
4. 職場でのコミュニケーションが機能しているか	12
5. 言葉以外のコミュニケーションも大切にしているか	14
6. 他者理解のために、相手の文化を理解しようとしているか	16
7. 「ハイコンテクスト文化」への甘えがないか	18
8. 「自分さえよければいい」という考えはないか	20
■研究課題1	22
第2章 職場のコミュニケーションを変革するポイント	23
1. コミュニケーションは「挨拶」からはじまる	24
2. 「傾聴力」を見直して、聞き上手になる	26
3. 自分から「自己開示」する	28
4. より良い関係性づくりに向けて「ジョハリの窓」を活用する	30
5. 相手の心の扉を開ける「コミュニケーションの5つのコツ」	32
6. コミュニケーションが組織をどのように動かしていくのか	34
■研究課題2	36
第3章 人と人をつなぐきっかけをつくるアイデア	37
1. チームで思いや経験をシェアする	38
2. メンバーを「ほめる・認める」機会を増やす	40
3. イベントに季節の行事を取り入れて、会話の機会をつくる	42
4. 職場でのイベントの幹事は、当番性を導入する	44
5. イベントの仕事をとおして、人と人をつなぐ	46
6. 小道具を活用して、人と人をつなぐ	48
7. 席次を工夫して、人と人をつなぐ	50
8. 人と人をつなぐための費用をどうするか	52
■研究課題3	54
第4章 風通しの良い職場づくりのための手法	55
1. 社内で行われるイベントは、大きく2つに分けられる	56
2. 「周年イベント」を成功させるコツ	58
3. 「ちょっとしたパーティー」を職場で行う	60
4. 企業のトップと現場の社員が「交流する場」をつくる	62
5. 気持ちが伝わる「歓送迎会」の極意	64
6. 「季節の移ろいを感じられるイベント」のすすめ方	66
7. イベントには「祭を楽しむ」という面があってもいい	68
8. 「スポーツ」をとおして、お互いの距離を縮める	70
9. 「社員旅行」で、“非日常”を共有する	72
10. 「表彰式」で、頑張った人を称える	74
11. 「風通しが良い職場づくり」のためのポイント	76
■研究課題4	79

第1章

いま職場で発生している
“ギスギス感”の原因

1

聞き取り調査から見えてきた「ギスギスした職場」の現状

「ギスギスした職場」とは

ギスギスした職場 「ギスギスした職場」と聞いて、あなたはどのようなイメージを持つでしょうか。私が考えるギスギスした職場とは、

- 自分の仕事さえこなせばよく、他人のことなど構ってられない
- 他人のミスは許さない一方で、自分のミスは誰かのせいにしたがる

自己本位 といった、他人に協力するのは損だという雰囲気になった、**自己本位**でとげとげしい職場です。

これでは、朝、仕事に向かおうとしても足取りが重くなり、職場では挨拶をしないばかりか、できるだけ誰とも目を合わせないようにして、早く帰りたくて仕方がないという、居心地の悪い職場になってしまうのも無理はないでしょう。

私は今回、本テキストを執筆するにあたって、日本を代表するメーカー・金融・通信サービス・教育サービス・大型小売業などに職場の“ギスギス感”に関する聞き取り調査を実施しました。その結果として、9割の企業は職場に“ギスギス感”を感じたことがあり、その解決に取り組んだ経験を持っていることがわかりました。

職場で“ギスギス感”を感じる時

それでは、「職場で“ギスギス感”を感じるのはどのようなときですか？」に対する回答を紹介しましょう。あなたの職場では、このようなことはないでしょうか。

- 同じ部門内であっても、挨拶さえ交わさないでいるとき
- そもそも相手の仕事に関心がない
- 自分の仕事に支障がなければそれでいいという雰囲気がある

- 部門間の接触がほとんどなく、仕事上のコンタクトさえとれたら、あとは関わりたくないと思っている人が多い
- 職場の目標が一人歩きし、次第に達成意欲が消えて「どうでもいい」という気持ちになり、否定的な言葉ばかり出てきたとき
- 相手の考え方ややり方を認めず否定ばかりしている間に、当人同士だけではなく、周囲の人間までもがギクシャクしはじめたとき
- 仕事が立て込んで余裕がなくなり、周囲に構ってられないとき
- ウマが合わない相手と仕事をしなければならないとき
- 日ごろから思っていることが言いにくく、職場に閉塞感が漂っている
- 上司とうまくいかず、中間管理職が板ばさみになっている
- メンバーの入れ替えなど、職場に大きな変化があって混乱が収まらないときに、上司が聞く耳を持たないとき
- お互いに「言っていることがわからない」と言い、理解しようともせず、投げやりになっているイラダチが周囲に向けられたとき

“ギスギス感”の原因

聞き取り調査を整理すると、職場の“ギスギス感”は次のことが原因になっていることが見えてきました。

- 相手に無関心
- 自分さえよければよく、人に関わりたくないという気持ちがある
- 相手を理解し、まずは受け入れようとする他者理解の心が足りない
- 職場のコミュニケーションが機能していない
- 世代間のギャップが大きい
- 縦割り組織
- 組織の価値観を共有できない人間同士の不信感